

会田展問題について今、思っていることをとりあえず書きだしてみる (ver. 2)

澁谷 知美 (東京経済大学教員)

※国外研究のためペーパーのみ参加。

集会後、このレジュメを拙ブログ (<http://shibuya.txt-nifty.com/blog/2013/03/320-ec9a.html>) にて公開予定。

※本稿中の赤字部分は配布版から修正した部分。

【1】森美術館にたいする文句

1) だったら過去の性犯罪歴も取りあげろ

抗議の高まりを受けて森美術館館長・南條史生がサイトに掲示した「会田誠展について」がご都合主義すぎて笑える¹。「会田芸術の本質は、彼の作品の総合的な紹介によってのみ、理解することができると考えてい」るので、「性的表現を含む刺激の強い作品」の展示を理解してほしいという内容。

だったら本人に確認したうえで過去にあったという性犯罪歴とか、それをもとにしたという小説も「総合的に紹介」すべきじゃないか²。犯罪歴や文芸活動などにも言及したほうが会田誠という人間をよりいっそう理解できていいではないか。「コレはとりあげてよいが、アレはだめ」って、なに線引きしてんだ。規格破りがお得意のアート様が。

そして、「この作家さんは、女子トイレにしのびこんで、手鏡で女の人のまんこを盗み見ていたんですよ～」とツアーで来た小学生にも説明しなければアートレクチャーとしては不足であろう³。女体をモチーフにした作品をウリにする作家が、犯罪をおかしてまで女体を盗み見る時、創作活動を支える、あるいはなんらかの関連があるものとしてその行為を解釈できる。そんな重要な行為を無視したのでは作品理解はおぼつかないと考えるのがふつうである。

もちろん、森美にそんな度胸があるはずもない。現在は絵の展示を容認している人でも、犯罪歴があるときけば、「そらマズイでしょ」と態度を変えることは予想できるから。が、じっさいには展覧会はつつがなく行われているのであり、結果的に犯罪者を持ちあげている。

2) 南條館長の無自覚ぶり

2-1) もれ聞いたこと。展示に反対する人びとと面談した南條館長。あの絵を見てショックを受けた女性がいるとすれば、「それはお気の毒です」としかいわなかったという。おどろいた。展示をした自己の責任を完全に放棄しているのにもおどろいたが、自分らがやっていることの影響が、「その場」かぎりで終わるとしか思っていないようだから。

性暴力を想起させる絵を美術館が無批判に展示するという行為は、「その場」かぎりで終わる話ではない。美術館による無批判な「展示」行為そのものが性暴力肯定の意味を持つこと、そのことが性暴力に寛容な未来を用意しているかもしれないことに無自覚すぎておどろくのである。

美術館における「展示」という行為は、中立で無色透明の行為ではありえない。米国の法務研究者で東京大学客員研究員のダグラス・マクレーン氏は、「欧米ではこのような女性や子どもへの暴力を賛美するような絵が美術館で公開されることはほぼないでしょう。国によって法律が違いますが、仮に違法ではないところでも展示が避けられるのは、このような絵の展示は性的な暴力を正当化するという市民の共通認識があるからです」という。子どもの時に性的虐待を受けて四つんばいをさせられた女性は、「自分がされたことを正当化されているような気がする」、「加害者が罰せられない世界に生きていることに絶望する」といっているが、それは杞憂などではない⁴。

やってよいこと、わるいことは、目に見えず、明文化されないふわっとした「常識」によって決まる部分が多い。今回の展示は、「このくらいの暴力なら、絵でなら表現してよいのだ」という「常識」をつくった。これがどんどん共有され、次の段階では「絵でなら表現して」の部分がぬれおちて、「このくらいの暴力ならよいのだ」という「常識」になるかもしれない。数年前、ネットで「〇〇人は死ね」といっていた人びとは、街頭に出て「〇〇人は死ね」と声に出して歩いて回るようになった。「常識」が次の段階に移行するのに何年もかかっている。

2-2) これは想像の話。たとえば少女監禁事件があった直後に展覧会が開催されたら、森美はあの絵を飾っただろうか？あるいは会期中に事件が発覚したら飾りつづけるだろうか？案外サクッとひっこめてしまうのでは。「ゲージツがどうの」とかいいつつ、その背骨が弱い（だって、「総合的な紹介」とかいいながら作品の一部を18禁コーナーに隔離する美術館だよ？）所にも腹がたっている。しょせん、「ゲージツ」なる制度を隠れ蓑に、他人を脅かす表現を支持しているのにすぎないから。

【2】展示に反対しない人にたいする文句

1) 实在モデルがないんだからいいじゃん、という意見について

实在モデルがないんだからいいじゃん、という意見があるが、实在モデルがないことは、実害がないことを意味しない。こちとら、むちゃくちゃ脅かされてるって！過去にあった性被害についても思い出してしんどかったし。———という、こうやって弱っている女すら自分の性欲のオカズにする男がいて、ほんと殺してやろうかと思う（←あ、表現の自由の範囲ですからー）。

2) 法に触れていないのだからいいじゃん、という意見について

法に触れていないのだから、表現の自由が保障されているのだから、絵の中で全裸の女の子の手足がもがれてようが、女の子がゴキブリと性交させられてようがいいじゃん、という意見がある。が、そういう人でも、「〇〇人を殺せ」、「〇〇人をガス室に送れ」というレイシストの発言には拒否反応を示し、法で規制されていないからといって何をいってもよいわけではないとの思いを多くは持つであろう。この事態は何を示しているのか。やはり、「絵」で「女」だと、べつにいいじゃーんとなってしまうのだろうか。

3) 広義の「規制反対派」はじつは腰抜けなのではないかという疑いなど

3-1) 今回の展示に反対しない、広義の「規制反対派」ってじつは腰抜けなんじゃないかと思っただエピソードをひとつ。

一部の人たちの脅かされ感をコストにしながら、「犬」展示は成り立っている。なので、あの絵を美術館で見ることができるというプロフィット（利益）を得たいと思っている人は、このコストを分かち合うべきだと思う。一部の人たちの犠牲のもとに、特定の人びとが利益を得るのは端的に不公正だからだ。

そこで、「中年男性も四肢を切断され監禁されても仕方がない世の中を作ろう、と声をあげてくれるか」と中年男性に、「フリーター男性も四肢を切断され監禁されても仕方がない世の中を作ろう、と声をあげてくれるか」とフリーター男性（前者は展示に反対するフェミニストに否定的見解を示していた人。後者は展覧会を賞賛していた人）にたずねたところ、前者は「なんでそういう論法になるのかわからない」という反応、後者は答えがなかった。

ヤセ我慢でも「おう、ガンガンに声あげますよ」ぐらいの回答を期待していた私としては、拍子抜けした。おそらく、自分と同じ属性が脅かされる状況はいやなのだと察する。そして、自分と同じ属性が脅かされる状況を提出されると答えが出ないのであろう。でも、自分とは違う属性が脅かされるのは、「表現の自由」で「アート」なんだな。この人らたんなる腰抜けではないか。

が、案外そんなものかもしれない。最近、合法的に買える男児ロリコンDVDのパッケージを集めたサイトを見た。女兒ロリコンDVDを嫌悪する女の気持ちがあった、女兒ロリコンの異常性を理解したなどの（たぶん男性による）コメントがいくつか付いていた⁵。自分と同じ属性がひどい目にあっているのを目の当たりにしてはじめて実感できることというのがある。

3-2) 展示に反対しない男性に疑問を投げかけたら、「ああいう絵を見て性的ファンタジーをかきたてる女性もいるでしょ」といわれた。いや、女であれ男であれ、なんらかの利益（たとえば、性的ファンタジーとか、金儲けとか、あの絵を美術館で楽しむこととか）を得る人のために、私は「脅かされ感」に耐えないといかんのですか、と問いたいのだが。

3-3) なお、3-1)における私の頭にあった「コストの分かち合い」は、宮地尚子氏の論文「孕ませる性と孕む性 避妊責任の実体化の可能性を探る」における、望まない妊娠のリスクを男女で分かち合うにはどのような方法があるかという思考実験⁶。

「避妊が失敗したときの負担は、圧倒的に女性に偏っている。そして、男性が肩代わりできる負担はほとんどない。〔中略〕ここでは、男性も同様の負担を負うようなシステムを人為的に想定してみよう。

例えば次のようなことが考えうる。避妊なしの性交をする。その直後に、男性は相手の女性が性病にかかっているという情報を与えられる。感染率は100%ではないし、一応治療法もある。ただ、感染しているかどうかは2週間以上待たなければわからない。感染したら、不快な症状もある。まれにだが、男性不妊という後遺症が残

ることもある。治療しても感染の痕跡だけは一生血液検査で残り続ける（梅毒のワッセルマン反応のように）。また、女性が妊娠したら、相手の男性にもインターネット等とおして胎児の存在のニュースが知らされる。一応、他人には知られないようになっているが、情報が盗まれる恐れもある。2カ月3カ月と時がたつに連れて、徐々に情報の機密性が落ちてくる。そして、6、7か月で情報の機密性は全く失われる。ニュースを止める方法は、女性に損害賠償（もちろん中絶費用だけではない）を十分払い、かつ自分の体の見えにくいところに妊娠経験（+）という印をつける手術を丸一日かけて受けなくてはならない。ニュースはストップするものの、ニュースの記録は保存され、噂は止めようがない」（21-2頁）

「[仮の想定として] 女性は避妊なしの性交を強いられた場合、その精液を密封容器に入れて保存しておけばよい。採取用のキットや保存用の容器などは薬局が販売するようになるだろう。そして妊娠した場合、その精液を医療機関なり請負業者にもって行って、相手を判定してもらえばよいのである」（24頁）。

「男性にとっては怖い話である。実際、研究会で精液保存の話をしたとき、男性陣がしーんと静まり返ってしまったことがある。管理社会という批判がおきるのは十分予測可能だ。[中略] しかし、そうだろうか。そのこわさの分だけ、これまで女性は自然の拘束条件を利用され、それによって管理されてきたということではないのか？そしてそのこわさに鈍感にさせられてきたということではないのか？」（24-5頁）

3-4) 「すでに現時点でロリコン男は世間から嘲笑されている。相応の報いを受けている（だから許してくれ）」みたいな意見を表現規制反対派から聞いたことがあるのだが、女兒がさらされている危険性とロリコン男がさらされている危険性がイーブンにならないかぎり、「相応の報い」を受けているとはいえない（なお、実際に危険性をイーブンにするべきかどうかの判断は今はおいておく）。

イーブンな状態を宮地論文にならって構想してみれば次のようなものである。まず、人びとが女兒を見て「女兒である」と認識できるのと同程度にわかりやすい、人びとが「ロリコンである」と認識しうる外見をロリコン男にも備えさせる。たとえば、体の見えるところにイレズミを入れなければならないという法律を設けるなどの方法で。脱法行為を防ぐため、イレズミは簡単に消すことができないようにする。また、イレズミの提示や登録がないとロリコン商品が絶対に購入できない仕組みを作っておく。イレズミを消せるのは自己が所有するロリコン商品をすべて処分した時のみである。いつ誰が何を購入し、何を手放したかは子細に記録される。

管理社会だ、というのなら、すでにそういう「管理社会」を女兒は生きている（女兒は「女兒らしさ」の記号をまとわなければならない、という本人や親への有形無形のジェンダー規範の要請、その結果の内面化という形で）。管理されるのがつらいというロリコン男のために、つらさに鈍感になれるようなキャンペーンもはる（「きちんとルールを守るお兄ちゃん、かっこいいでちゅ」的なことをロリコン男が好きそうなキャラに言わせるキャンペーンなど）。

そして、女兒を性的なまなざしで見ることや女兒への性的加害を許容し、そうした行いはやましくも快樂であると伝えるマンガやDVDがどこでも買えるていどに、ロリコン男を嘲笑したり性

的・非性的に加害することは「やってもよいことである」と許容し、そうした行いはやましくも心躍る愉悦であると伝えるマンガやDVDがどこでも買える状態にしておく。

そして、「女兒のほうから誘うことだってありますよ（だから悪いのは女兒であってロリコン男ではない）」がロリコン正当化の方便としてまかりとおっているのと同程度に、「下劣な願望を持つロリコン男は何をされてもしかたがない（悪いのはロリコン本人であって、女兒ではない）」という世論を形成する。

こうした過程を通じて、女兒が性被害にあったり、殺されたり監禁されたりするのと同じ割合で、ロリコンのイレズミを入れた男性が性的・非性的な被害にあったり、殺されたり監禁されたりする社会を形成する。こういう世の中が到来しないかぎり、「ロリコン男が相応の報いを受けている」とはいえないだろう。

【3】 フェミニストやそれに類する人への文句

1) 「展示に反対なのか、賛成なのか、私に踏み絵を踏ませるな」（大意）とっているフェミニストがいた。今反対しないでどうする。踏み絵とかいってる時点で私的にはアウト。

2) 「そうした欲望〔女を裸にして痛めつけたい、女の手足をもぎたい、でも元気で笑ってほしい、ボクを恨まないでほしい等々〕を公共空間でおおっぴらに表明されますとね、女である私は恐怖を感じるんですよ」と自分のブログに書いた⁷。日本人、アジア人、40歳、研究者、教師、フェミニスト、親から見た娘等々、私にくっついているいろいろな属性のうちの、「女」の部分で恐怖を感じるという意味だった。が、フェミニストからも、非フェミニストからも「女を勝手に代表しやがって」的な批判をされた。なんでこうなるのか。ロジカルにおかしくない？ すでにあるテンプレで批判されている感じ。

3) 「たとえば、その絵の作者が、虐待を受けてきた女性だとしたら、彼女が生きてきた世界を表現したものだという解釈が成り立つであろう。そんな世界への異議申立ととらえることができるだろう」とブログに書いた。この時、頭にうかべていた「女性」とは松井冬子。暴力を受けてきたと自ら語り、内蔵が丸出しになっている少女の絵などを描いている⁸。

が、「暴力被害者をフェミニストが利用している」、「暴力被害者を分断しようとしている」、「この人は暴力被害者なのかどうか、まさぐるような目で見ると状況を再生産している」という内容の批判をされた。なんでも、みずからの利益のために性暴力被害者を利用するフェミニストのことがこの人の頭にはあり、私はそれにカテゴライズされるらしい。

けど、松井冬子やフェミニスト・アートというのは、アーティストの広義の「被害体験」も込みで作品を見るよう観客にたいしてプレゼンテーションしている。批判している人に尋ねたいが、そういう例を引き合いにしたらいけないということ？ ひいては、被害体験をもとにした当事者の創作を許さないということ？ てか、私も性被害にあったことあるんだけど。積極的に被害者を分断

しているのは自分ということになりそうだが。この批判もテンプレ感が否めなかった。

4) 思っていたとおりのことだが、フェミニストのうち「やおい」クラスタの人はだんまりである。「やおい」と「犬」とでは、当事者と自認する人に与える恐怖感の質量にだいぶ差があるように思うのだが、それは言ってはいけないことになっているのだろうか。

【4】 その他雑感

1) 「そんな行いは下品だ」、「恥ずかしい」、「人権侵害である」といった、「それ以上説明不可能な感情表現」というものがある。たとえば、AKB丸刈り事件、新大久保のレイシストデモにたいしてはこうした声が聞かれた。そして、糾弾に結びつき、変革が起きた（丸刈りビデオは削除され、レイシストデモにたいしてはカウンター行動が起こった）。理論と感情が対立させられ、かつ前者に優位性を認める社会において、「それ以上説明不可能な感情」は劣位に属する。だが、確実に社会を動かす言動力になっている。

会田展問題にかんしては、「そんな行いは下品だ」、「恥ずかしい」、「人権侵害である」といった声がさほど聞かれない。AKBやレイシストには反対の声を上げていた同じ人が、会田展には問題なしとみなす例を見かける。つくづく、表象とコラボした女性差別は低く見積もられるんだなあとと思う。

2) 作家の属性、展示場所など、背景知識ぬきで絵を見られるはずだ、あるいは、そのように見るべきだといったげな人がいる。ウソツキだ。森美に足を運んでいる時点で、または森美に飾られていることを理解している時点で、「この絵は森美に飾られている」、「アートとしての認定を受けている」という背景知識は頭に入っているだろうに。

3) 「会田にはエコや社会問題をテーマにした作品もある」ことを強調しつつ、「犬」展示を擁護したげな言説を見た。社会的に「良きもの」とされているテーマについても取り組んでいる事実をもって、脅かされ感を与える作品の展示を許容するというロジックが分からない。部落解放運動の父・松本治一郎であれば民族差別をしてもOKとか、そういうロジック？

4) 一部の人びとに恐怖感を与えながら、もしかしたら将来の性犯罪も用意しながら展示が粛々で行われる感じが、核廃棄物の処理を考えずに進められる原発のようだと思った。特定の人利益のために、特定の人にしわよせがゆくさま。そして、実害はないことになっているさま。

5) 「作品は配慮されて展示されていた」という、展示を見てきた人のセリフをウェブ上で何度か見た。流行ってるのだろうか。無難なことをいってるポーズで、現状維持に加担している感じが、「ただちに影響はない」に似ている。配慮されて展示されていようがなにしようが、そこそこ

名の知れた美術館に展示される状況そのものが問題だといってるのに。ごまかしもいいところだ。

6) 川野里子という歌人が発表した展覧会評。男の無軌道な欲望を応援しちゃう女っているよな、と呆れた。こういう発言をして自分にだけ害が及ぶのなら自業自得だが、そうではないからね。迷惑。主犯は美術館だが、このテのチアガールにも罪がある。

「日本の美意識は、女たちをこのように画一的な形象の中に閉じ込めてきた。その幻想が会田に抱えられるとき、それなしには生きてこられなかった男という性の痛ましさであらわになるのである。／自分がひた隠しにしてきたものをあらよとばかりに見事にさらけ出される痛快さ、とでも言おうか。ああ、もう隠さなくていいんだ、という不思議な安堵感というのだろうか。覆っていたものを剥ぎ取られ続け、会場を出るところには身軽になっている。不思議に生きることが楽になっているのだ」(川野里子「秘め事さらけ出す痛快さ」『信濃毎日新聞』2013年1月28日)

「それなしには生きてこられなかった男」の気持ちを読解してあげて、「もう隠さなくていいんだ」、「身軽になっている」と代弁、肯定してあげるすばらしいサービス精神。男権社会は男だけが支えているものではないことを思う。

7) ポルノの定義問題に引きずりこまれるので、「犬」がポルノかどうかはおいておく。が、哲学者 Rae Langton による次のポルノ批判は、「犬」に当てはまっているように思う。とくに「祝福」という部分が。

「ポルノグラフィはレイプ、肉体的暴力、セクシュアルハラスメント、児童虐待をセクシュアルなものにする…ポルノグラフィはそれらを祝福・促進・許可・合法化する (it celebrates, promotes, authorized and legitimates them)。 (Langton, 1993: 307、強調はラングトンのもの)」⁹

8) 私のブログのURLを引用して、「これは同意できないな…」と一言で否定して済ませる某研究者がいた。べつにいいんだけどさ。この人が創立にかかわった学会から広報を依頼する手紙と一っしょに大会のポスターとチラシが毎年送られてくるんだが、こちらが真剣に書いた文章を一言で終わらせるお気楽さに、もう送ってくるなと思ったのも事実。

¹ 「現在、弊館で開催中の「会田誠展：天才でごめんなさい」では、既にご案内のとおり、展示内容に性的表現を含む刺激の強い作品が含まれております」、「会田芸術の本質は、彼の作品の総合的な紹介によってのみ、理解することができると考えています」(南條史生「会田誠展について」2013年2月6日。http://www.mori.art.museum/contents/aidamakoto_main/message.html)

² 過去の性犯罪歴については、大学時代からの会田の知己である加藤豪氏 (@_5925263769112) がツイッターで以下のように言及している。逮捕歴はないようだ。これについて会田は、「最近」はやっていないとツイッターで明言した。が、「過去」についてはとくになにもいっていない (@makotoaida)。なお、加藤氏の以下のツイートは、トゥギャッター「とある独白」(<http://togetter.com/li/455859>) にもまとめられている。

2013年2月4日 - 3:15

https://twitter.com/_5925263769112/status/298132589221380096

僕が会田誠から直接聞かされた、彼の小説等の元になっているという自らの性犯罪体験とは、公共トイレに忍んで手鏡を持って待ち、隣に来た女性の後部から気づかれぬように手鏡を差し出し陰部を写し見る、というものだった。彼は小説等においてその描写を克明にしている。

2013年2月4日 - 3:15

https://twitter.com/_5925263769112/status/298132659702489088

彼がいつごろから、そういう性癖による行為を始めていたのかについては、詳しいことは僕には分からない。

2013年2月6日 - 1:25

https://twitter.com/_5925263769112/status/298829827698483200

トイレ覗きに関しての、逮捕歴は無いと会田誠から僕は確認している（電話確認。まだ最近のこと）。ただ「(被害者に) 気づかれたことはある。」「見つかったことはある。」ということであり、この場合は、逃走しおおせたか、トイレの設置場所の管理者に突き出されたかのいずれかであろうと思う。

2013年2月6日 - 2:59

https://twitter.com/_5925263769112/status/298853350986874880

僕はそれ以上、これに関し立ち入って詳しく会田には聞いていない。むしろ、望むのは、「芸術」を隠れ蓑にし法を逸脱した自らの行為(=趣味)を正当化するのは誤りだということを、是非自分の思考によって気づいていって欲しいということだ。

以下は、会田のツイート。

2013年2月6日 - 2:07

<https://twitter.com/makotoaida/status/298840373894197249>

逮捕されたとか逮捕されないとか、そんなんどーでもでもいーよ。体制側とか反体制側とか、そんなんどーでもいーよ。

2013年2月25日 - 3:53

<https://mobile.twitter.com/makotoaida/status/305888199182532608?p=v>

うざいので無視してきたけど、さすがにちょっと書きますか。K何某のツイートについて。まずはトイレ覗き云々やってやつ。最近でもやってるって、んなわけないでしょう。『青春と変態』を書いたのは28歳だったかな。捻れた思春期の感性を思い出せるのはこれが最後かなと思って書いたもんです。(続く)

3 性犯罪歴に言及しないレクチャーはレクチャーとして不足があると指摘することは、性犯罪歴に言及したレクチャーを小学生にも行えという主張ではない。「恐怖心を抱かせるかもしれない話を小学生にも聞かせろと澁谷は主張してるぞ。わー」と騒ぐバカがいるやもしれないので念のため。

4 マクレーン氏、女性の発言は、宮本有紀「人権侵害の表現を「芸術」とするのか」『週刊金曜日』2013年3月1日号、56頁より。

5 URLは敢えて書かない。被写体の男児たちの顔がはっきりわかり、人物が特定される可能性があるため。

6 宮地尚子「孕ませる性と孕む性 避妊責任の実体化の可能性を探る」『現代文明学研究』1号、1998年。
<http://www.kinokopress.com/civil/0102.pdf>。ちなみにすばらしい論文。

7 澁谷知美「会田誠の絵も、それがアートになる社会も醜悪である（署名募集あり）」2013年1月29日。
<http://shibuya.txt-nifty.com/blog/2013/01/post-1160.html>

8 参考サイト。「松井冬子と上野千鶴子の対談に想う／E T V特集「痛みが美に変わる時～画家・松井冬子の世界」『みどりの一期一会』2008年4月22日。<http://blog.goo.ne.jp/midorinet002/e/ae912b43ae921e2b826c44b7971fc5dc>

9 cited in 江口聡「ポルノグラフィに対する言語行為論アプローチ」『現代社会研究科論集』1号、2007年、27頁。<http://www.cs.kyoto-wu.ac.jp/grad-bulletin/1/eguchi.pdf>

以上